



大尾 第十号 後編 記 戦 魔 島
永島福太郎録



A 445
106

永島福太郎録

永島子孟齋畫

繪本 鹿兒島戰記

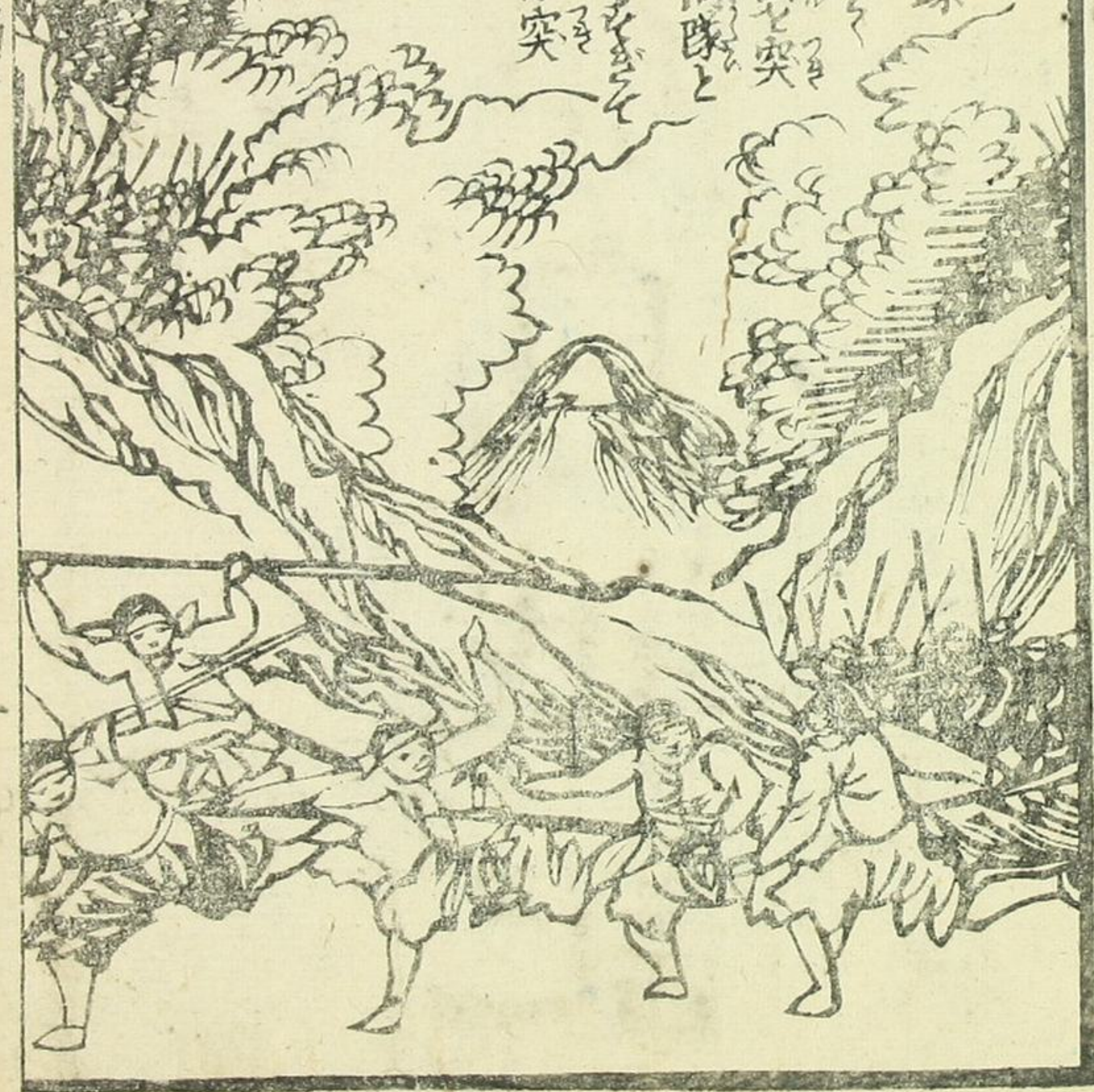
東京書肆

青盛堂版

鹿兒島戰記後編十

永島福太郎録

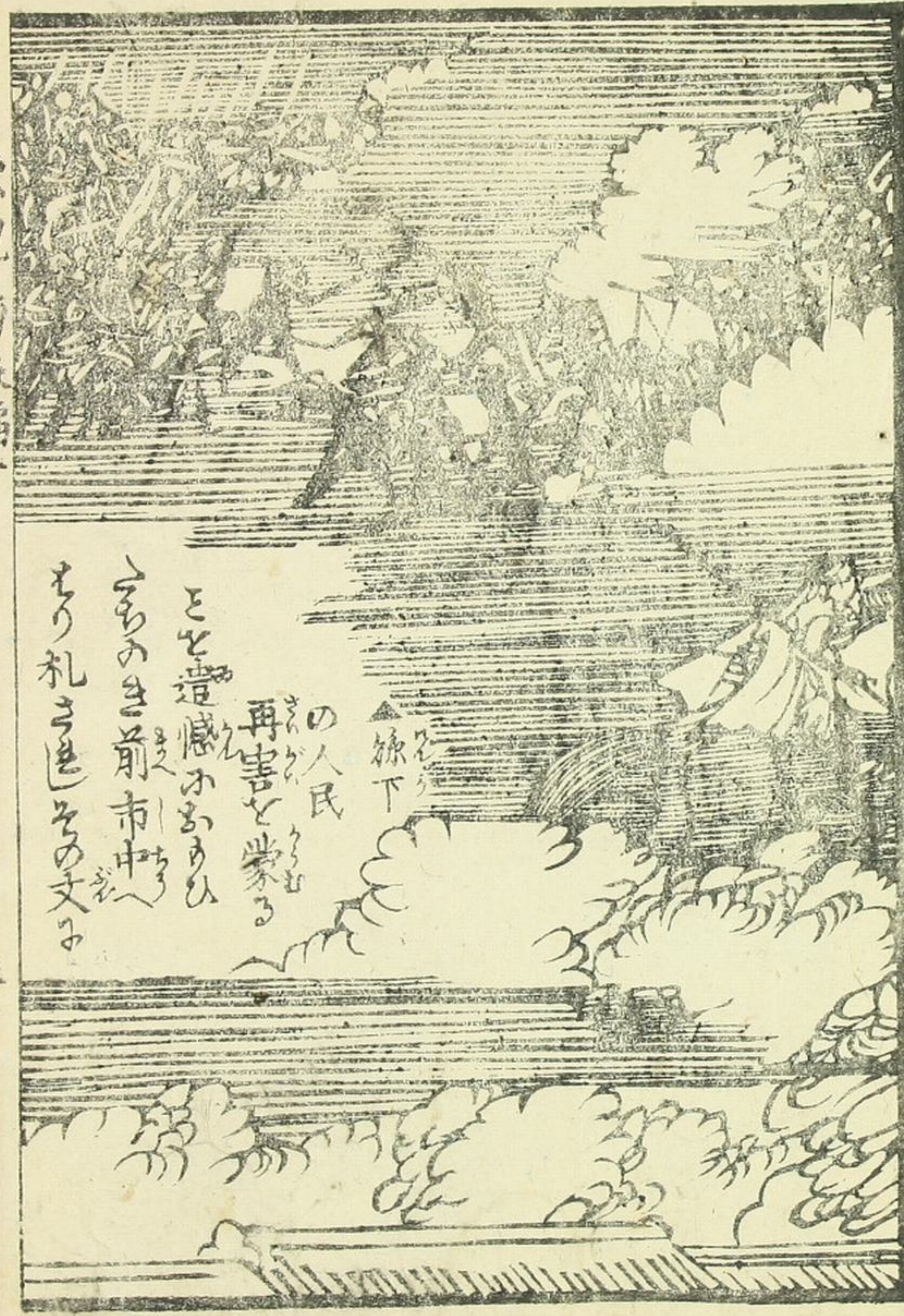
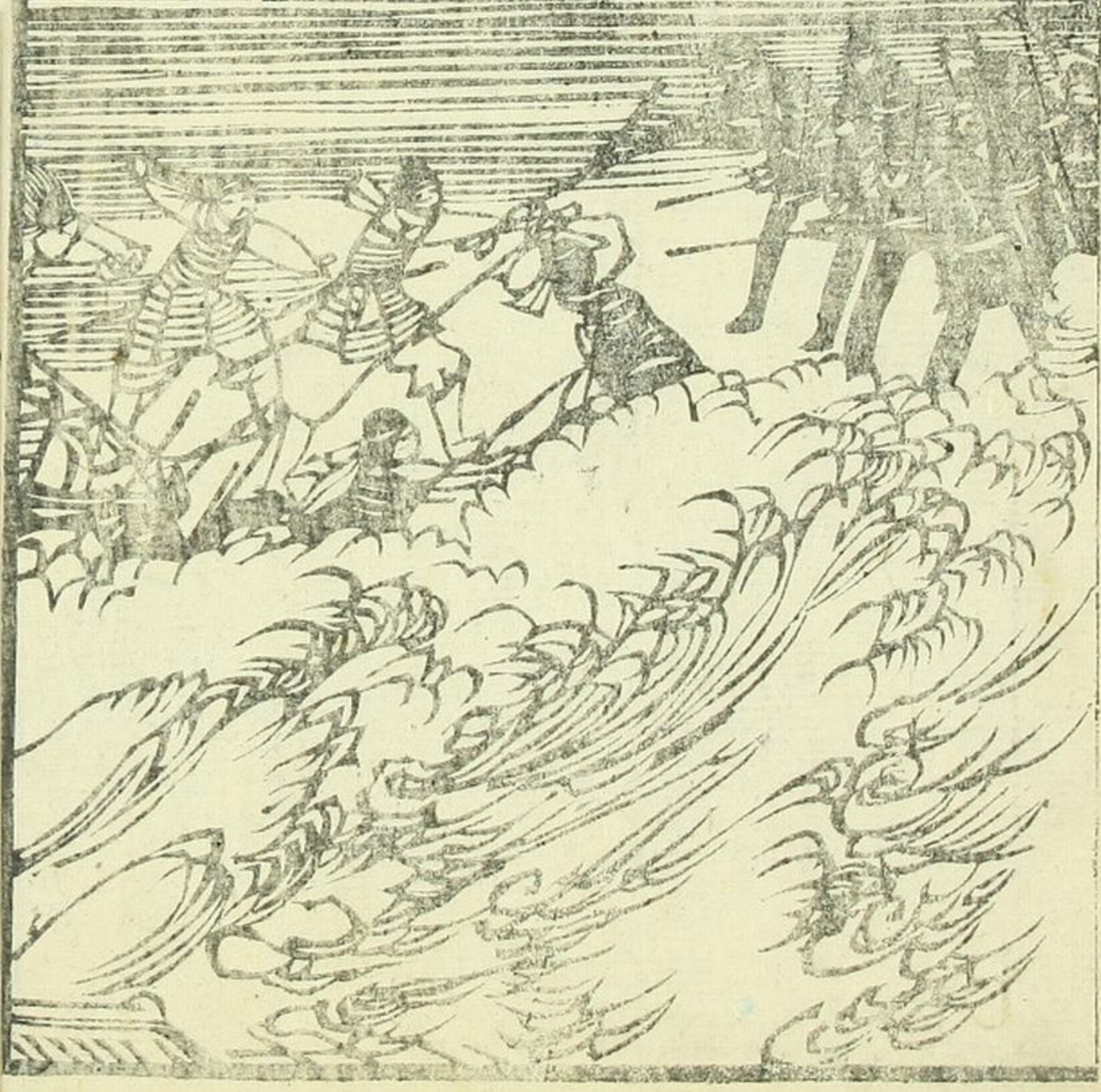
さても賊兵の勢はさか
横川中三好少将の旗團を突
抜き加治木に進む猶同隊と
戦ひ道と轉じて山田とを
九月一日鹿兒島城下を突
出懸麻とあそひし
縣官の各員は書類
其外と高千穂丸の
運び出せしめて本
船の舟舟の甲艘
余り備へ



48-7906

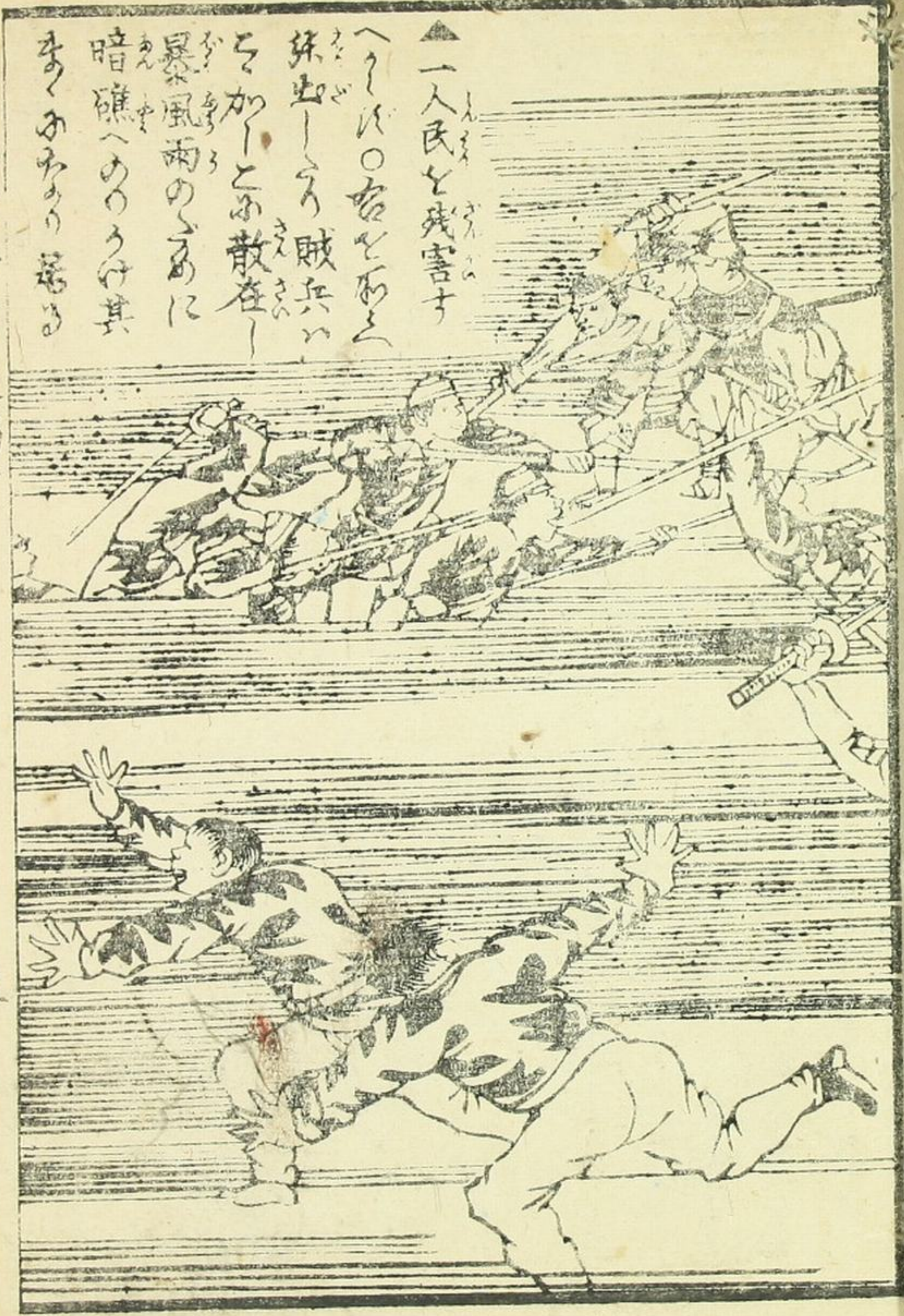
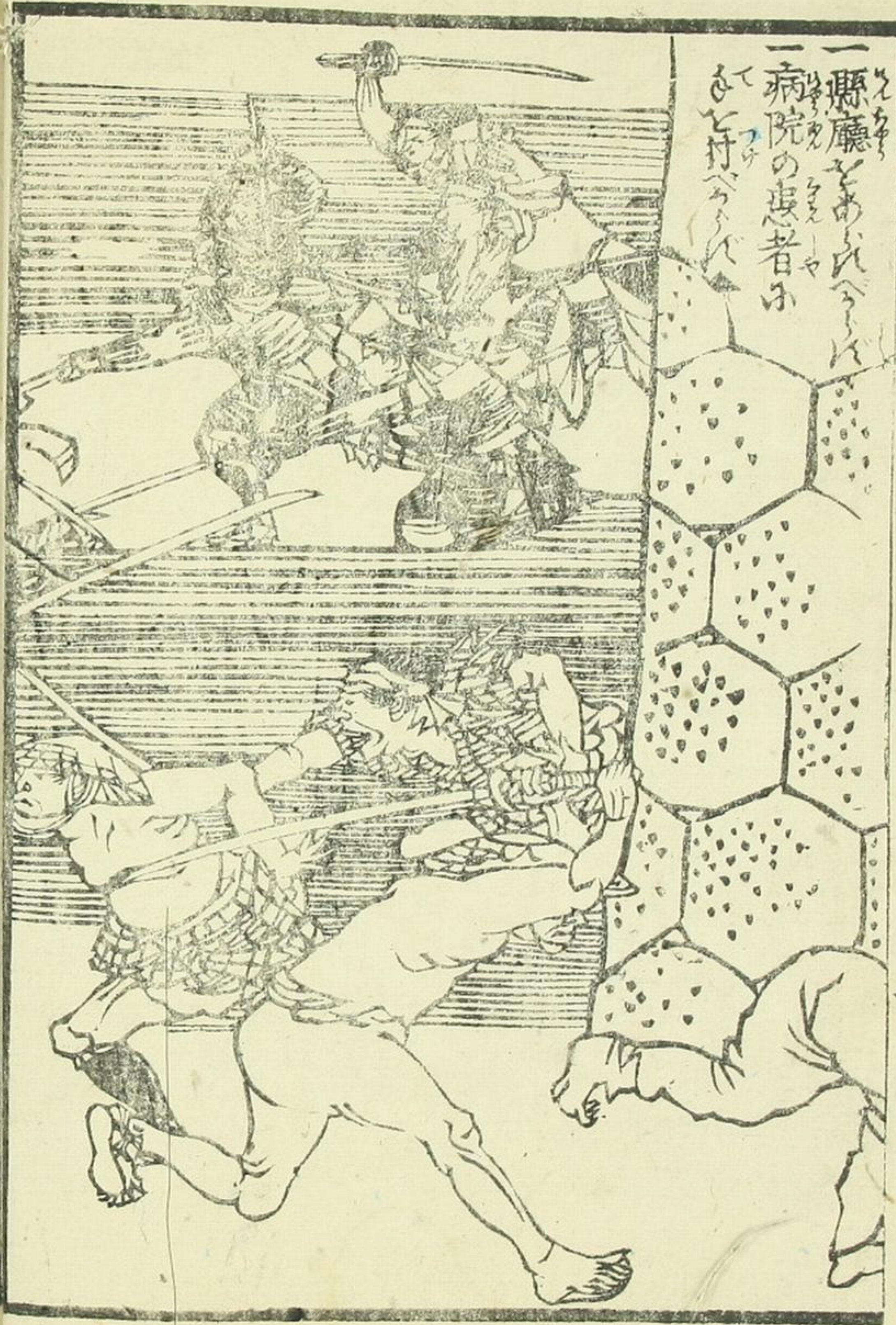
ありが此混雑小
舟を何れもの
乗ゆればやどら
十五艘と小蒸気
一艘のこりしる
乗あつては者もあ
とて戒め我先ふと
乱入一縣廳を奪ひ
金穀と分捕りす
から危急のとき

縣令
岩村
君



の人民
再害を蒙る
と遺恨あり
その前市中
より礼を遂その文子

一縣廳をあらわし
一病院の患者を
とてけり

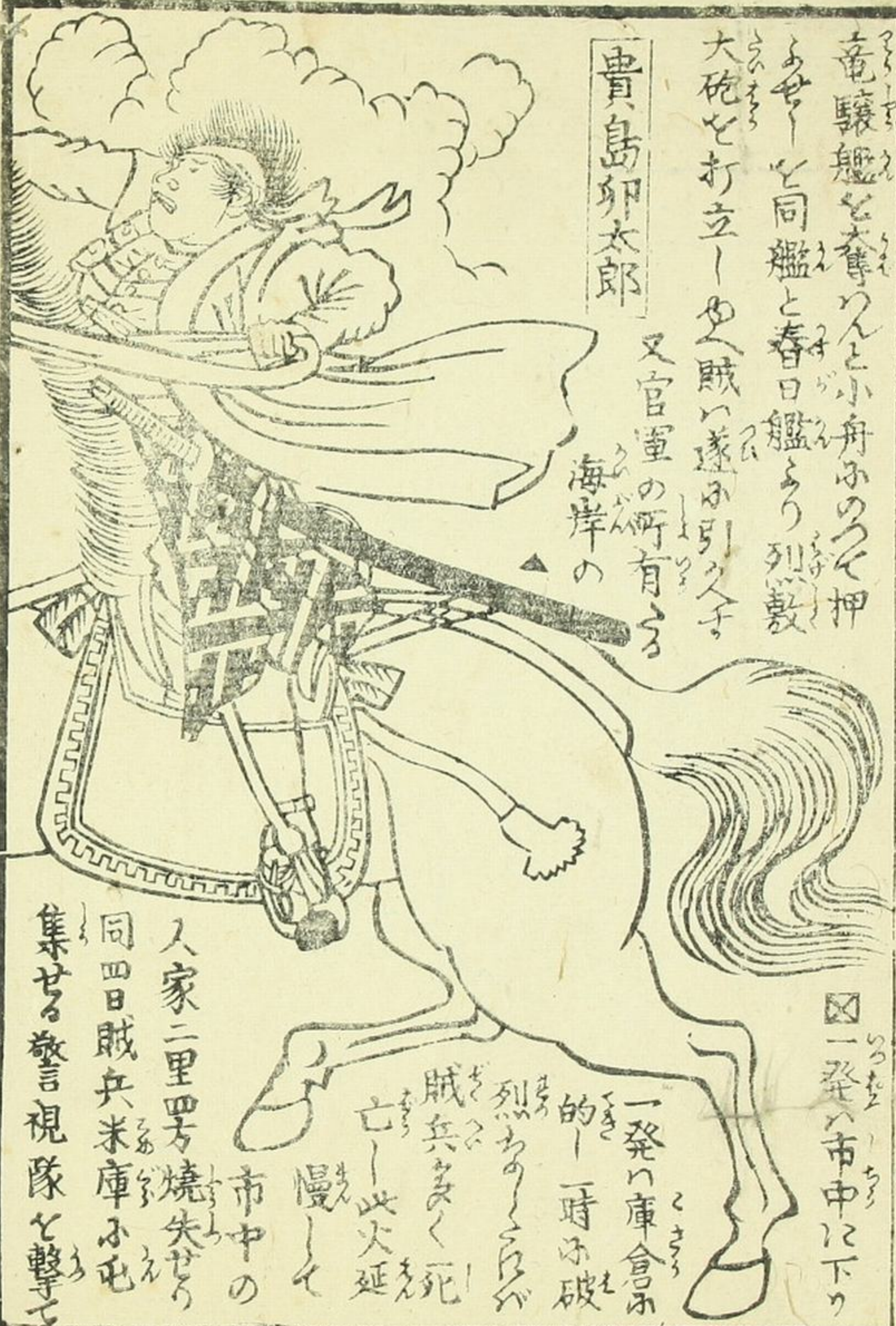


一人民を被害す
へくはの者をあら
はししう賊兵の
らかこふ散在し
暴風雨のふりに
暗礁へのうけ其
まぐめあかりを

竜驤艦を奪りんと小舟のつて押
 ろせし同艦と春日艦より烈敷
 大砲を打立しや賊は遂に引去り

貴島卯太郎

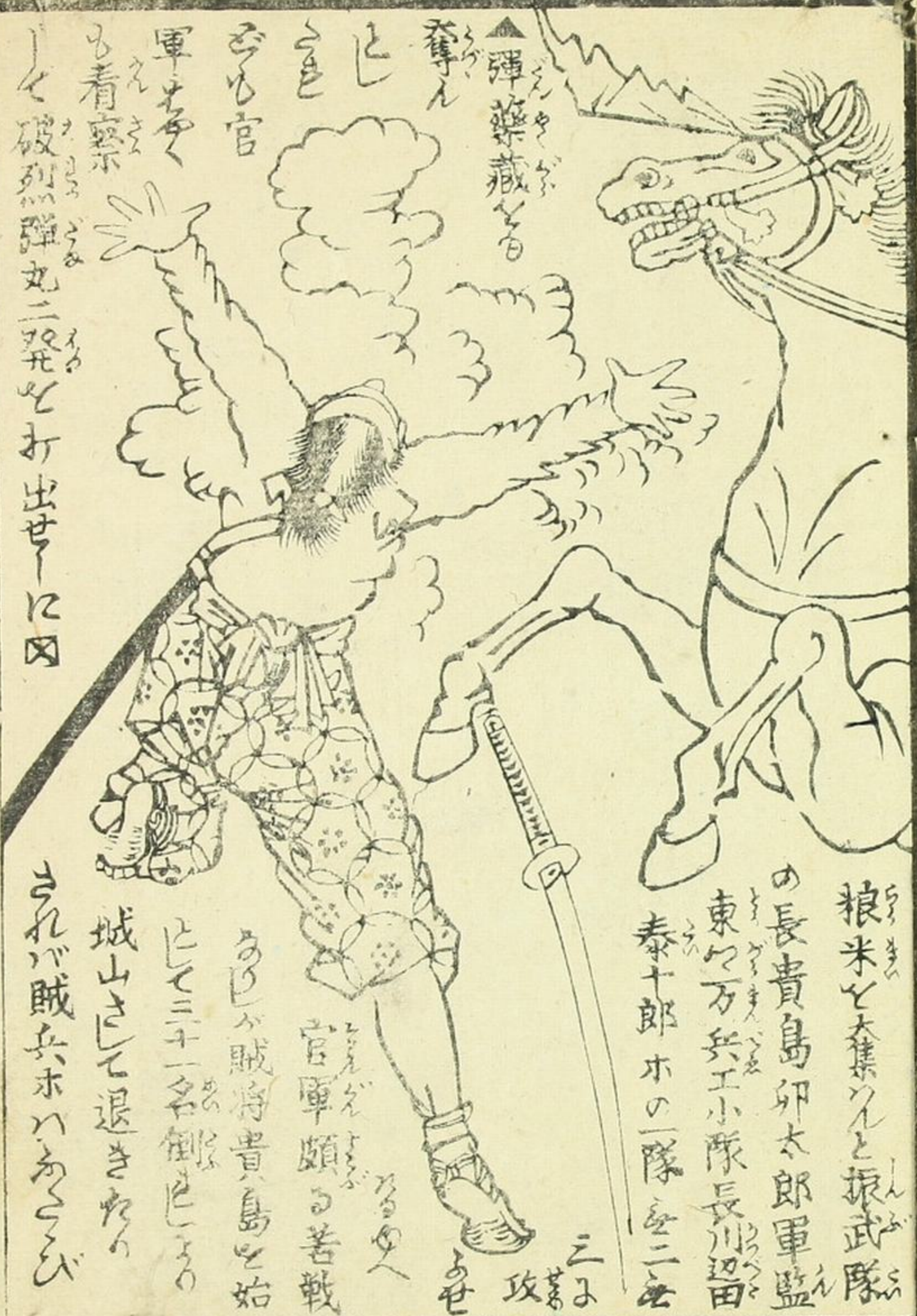
又官軍の所有する
 海岸の



一発の市中に下り

一発の庫倉の
 的一時は破
 烈ありしは
 賊兵多く死
 亡此火延
 慢し

人家二里を焼失せり
 同日賊兵米庫小屯
 集せる警監視隊を撃て

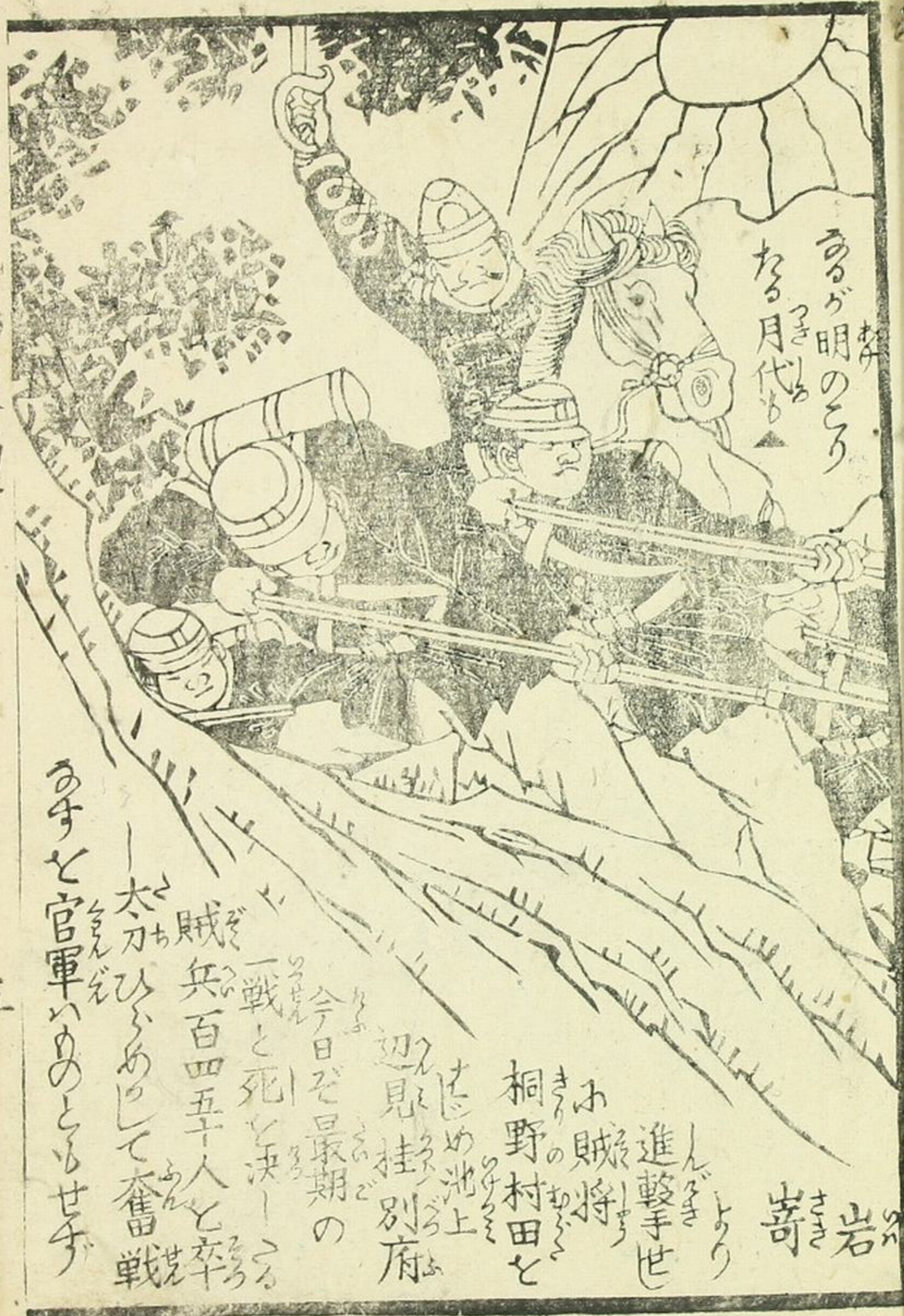


弾薬藏を奪ん

官軍の
 官軍の
 も看察
 破烈弾丸二発を打出せし

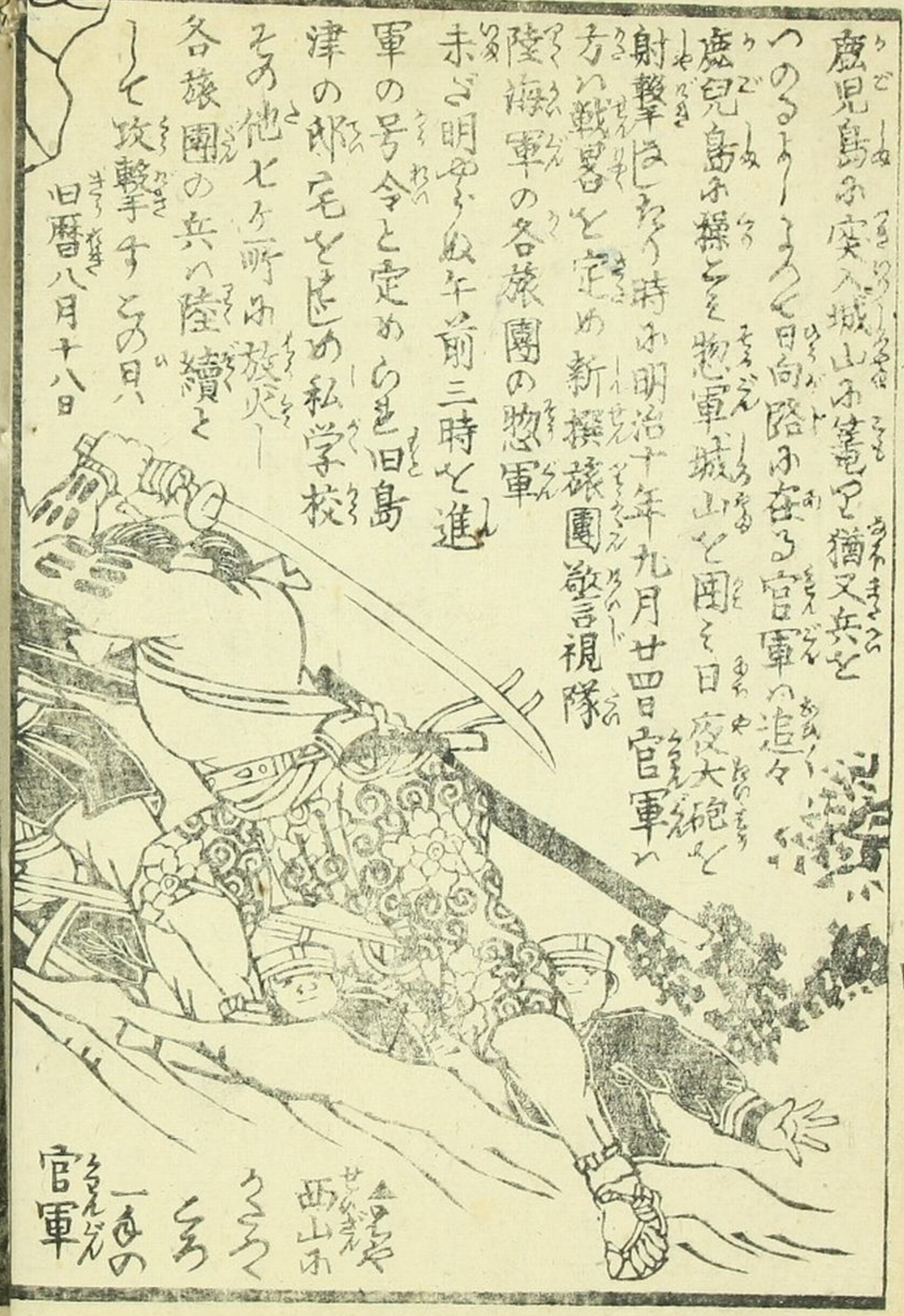
糧米を大集りと振武隊
 の長貴島卯太郎軍監
 東の万兵工小隊長長川田
 泰十郎ホの二隊を二

官軍頗る苦戦
 ありし賊將貴島を始
 して三十一名倒せしもの
 城山さして退きたる
 されば賊兵ホハあこむ



あが明のころ
たる月代も

あすは官軍のめいともせす
 一戦と死を決し
 賊兵百四五十人と卒
 太刀ひらめいて奮戦
 今日を最期の
 迎撃掛別府
 小賊將
 桐野村田と
 進撃手世
 岩寄



鹿見島を突入城山を籠りて猶又兵を
 へるよりよして日向路に在る官軍の追々
 鹿見島を標を惣軍城山を圍り日夜大砲を
 射撃はじり時小明治十年九月廿四日官軍の
 方の戦畧を定め新撰旅團敬言視隊
 陸海軍の各旅團の惣軍
 未だ明やぬ午前三時と進
 軍の号令と定めぬは旧島
 津の邸宅をばめ私学校
 その他七ヶ所を放火し
 各旅團の兵へ陸續と
 して攻撃すその日
 日曆八月十八日

官軍
 西山
 岩寄

安村中尉

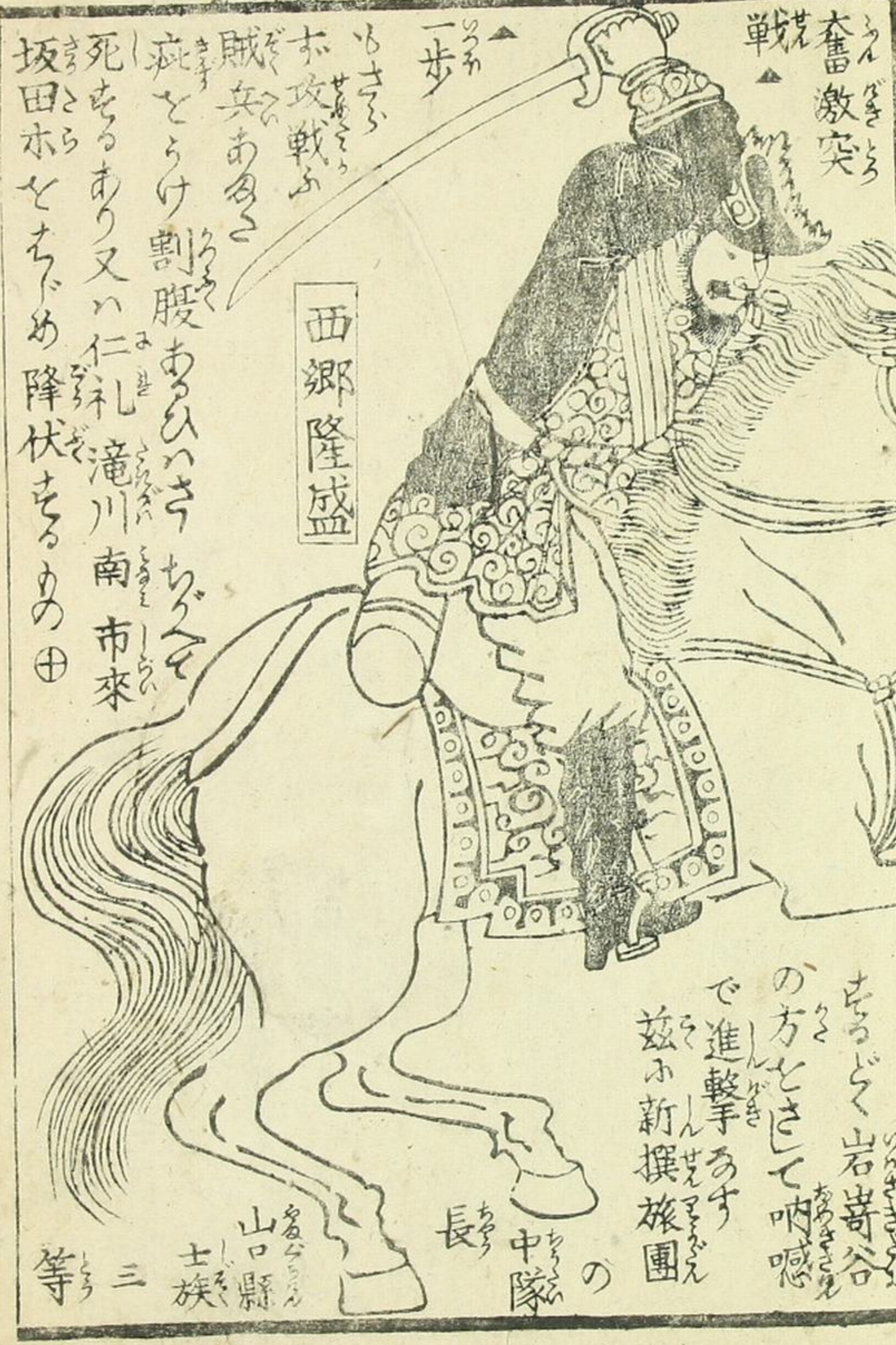
○中尉安村 治孝



大小砲と烈敷おうけ攻
登る中より東伏見少将
が率ひたる新撰旅團の
各隊先立西の討ち功
名とあふさんと飛來る弾丸
どかどかを抜刀揮つて押登り
賊壘間道く攻寄る此際
賊の彈藥尽是迄なりと
銃番を投をり得ぬくと
携へて死物ぐるひは
切て出從横小
るにまのまは
官軍勢も

と刺さ
西郷隆盛
七十
余人官
軍勢ひますく

戦 奮 激 突



西郷隆盛

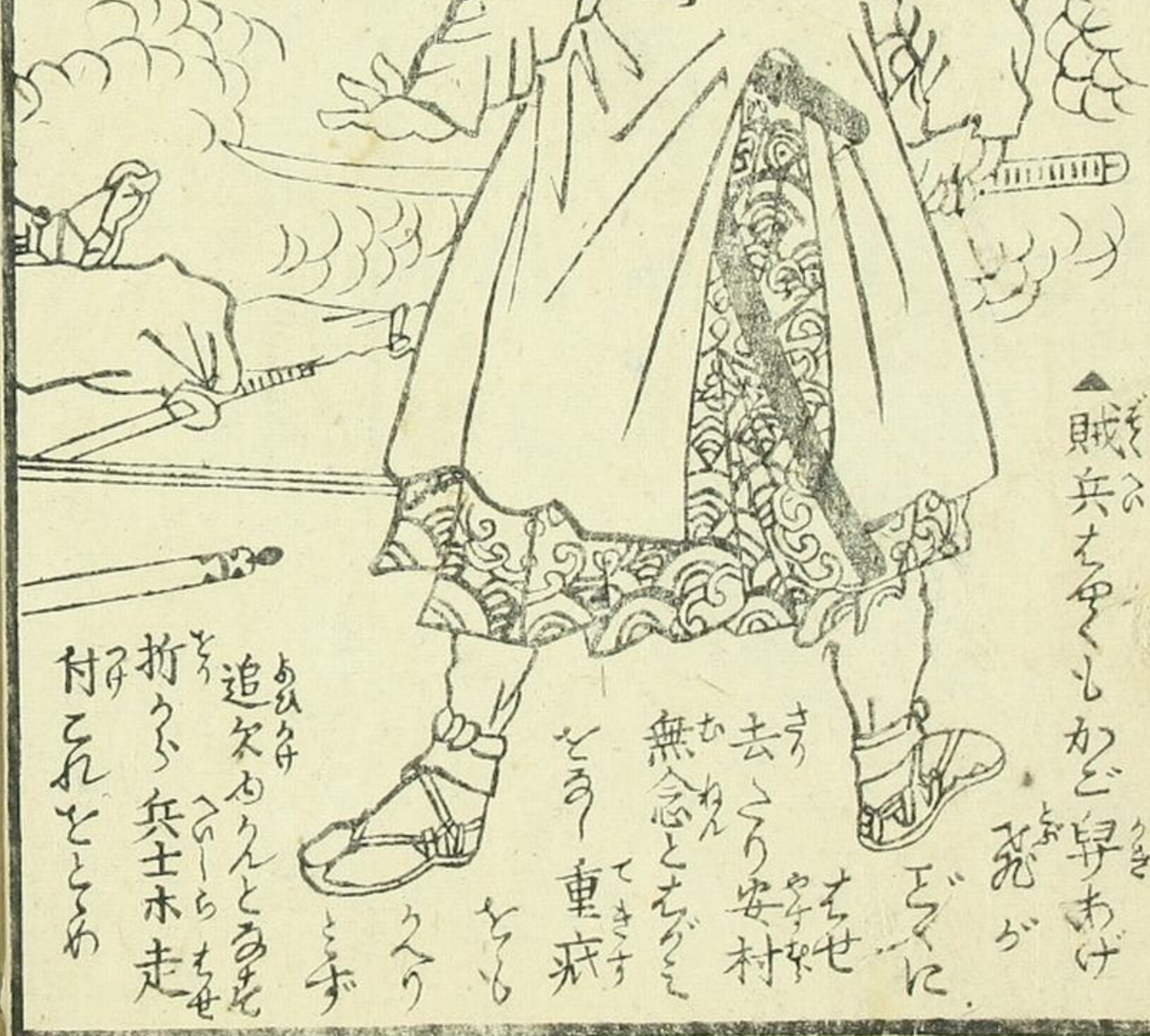
もささ
お攻戦ふ
賊兵あふこ
疵とらけ割腹あひひさ
死をるあり又仁礼
坂田ホとちめ降伏するめ

さうどく岩寄谷
の方とさして呐喊
で進撃あす
茲小新撰旅團
の
中隊
長
山口縣
士族
三
等

表已所及三

別府新助

大警言部
兼陸軍中尉安村
治孝のまきし辰の役奥
羽の戦ひ小勇名と裏らせ
剛の者あて西々の面体も
よく見知りたは討取て
功名せんと乱軍の中と奪



賊兵を中もかど尋あけ
去り安村
無念とむ
重疾
追々めんとあ
折る兵士ホ走
村これととめ

走し八方へ眼とくつり
く賊兵あぬと付をひ
一挺の駕籠籠をかきぬと
安村速く見とあつと見
平く西々あふんと只一人
駈付て銃鎗とあつと
之駕籠籠ぐに突貫く
只一大事とあつと賊兵
安村目かけと切付るにめく
まゆと安村の多勢と相
みたくふんりうう一発の弾丸
飛来り安村の太股と貫きこれ
へ思ひ尻居またあつひぬに▲



挂四郎

肩あつて引退
どく此時西々
所持のヒストル
捕分
射撃手
安村を



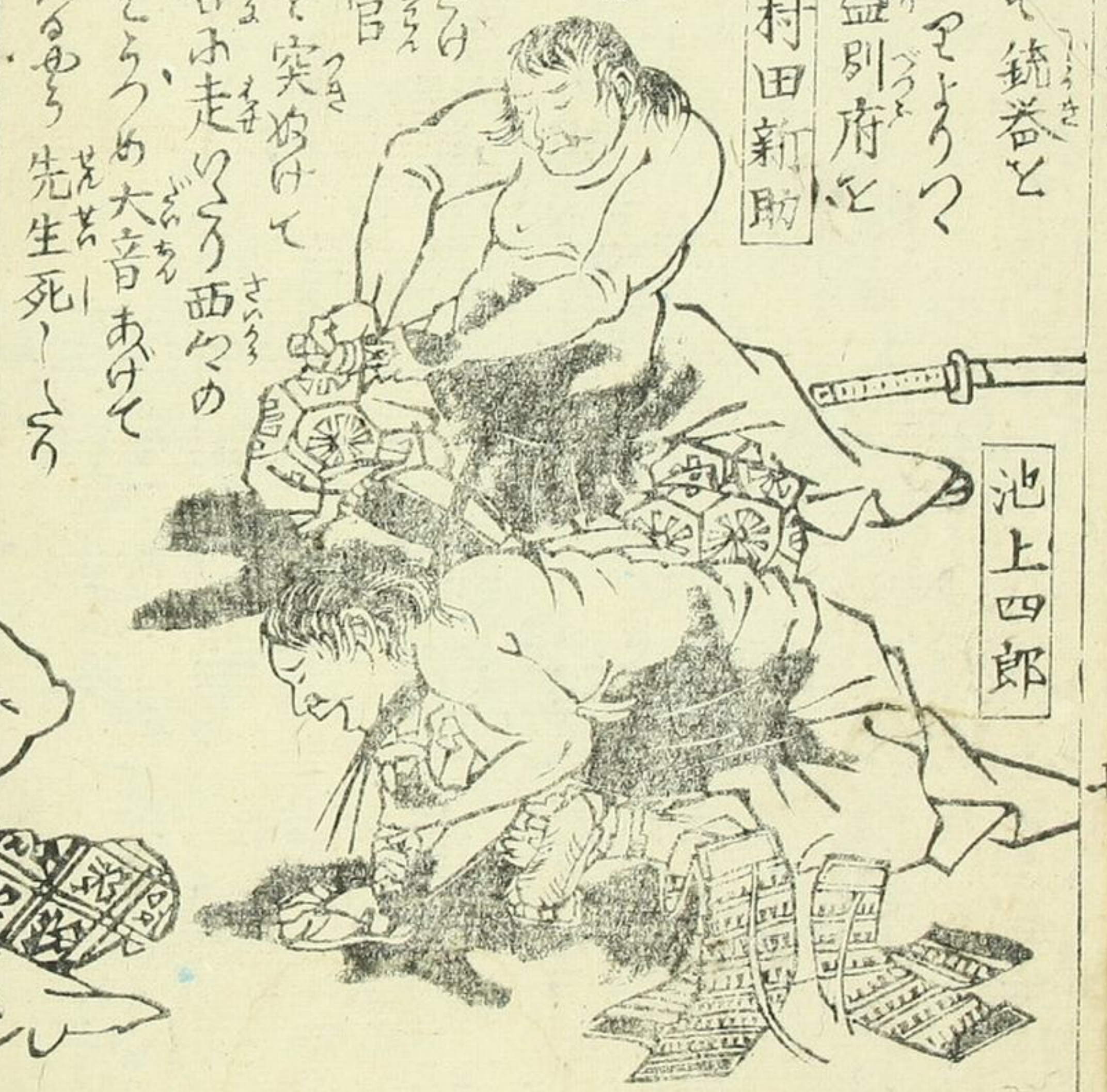
戦ひの是まであり各々
あつまり山との声
きくより桐野を
下め村田池上
逸見桂その他の
賊將集合せり

逸見十郎太

此際池上策をまらけ白旗を
降伏の状を告げ官軍に近付て切死をせんと
計りてその機をさうして官軍の小砲を
連発する所を策もあつた切腹を
死せりあり又互ひにさしあふまらるる死
みなるさき同戦のさめより救月の間日薩
隅肥豊の諸國小暴威をさひ猖獗を極め



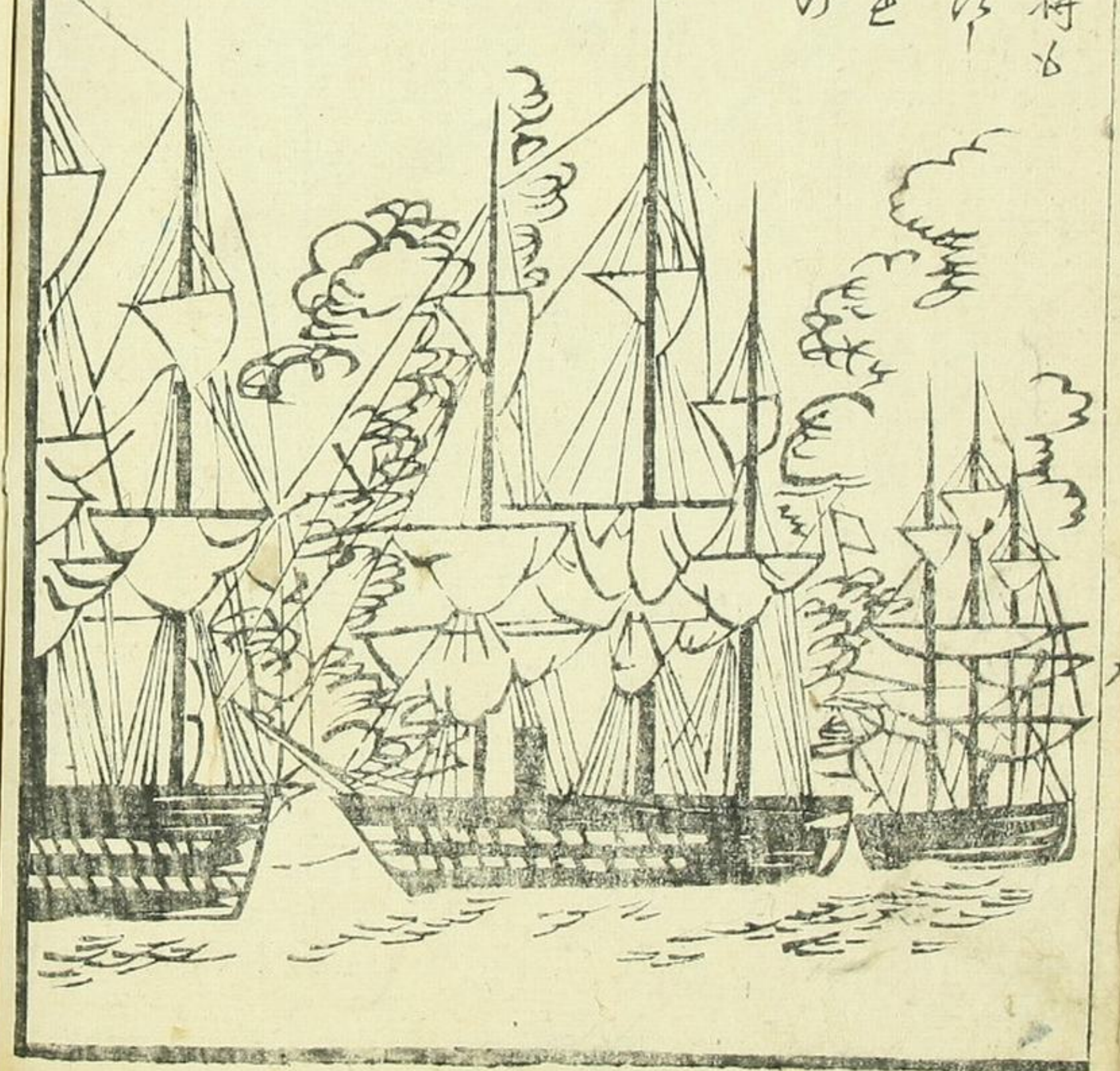
賊將別府新助まで銃巻と
投てく棄物へちりてより
安否を問へば隆盛別府を
見るより今
村田新助
ちやとるまでと
いふ別府のころえ
て西々の首をち
左り小首級と引さ
の、太刀ちりちり官
軍のむかひの中突ぬけて
岩崎谷み走りより西々の
首級をちりめ大音あけて
のちりちり先生死し



池上四郎

たりー 西々以下の賊将も
 俚言の歌ハ正に勝は
 て官軍の兵力にあきま
 城山の戦ひは岩崎谷の
 露とさる全くつた
 鎮定にあきま
 官軍方の奮発の
 勇戦せりとさる小
 引く三千余万の人民
 其軍功大功を賞し
 永く泰平の代を
 祝せざらんや

鹿兒島後編十号大尾



010190508086

